摘　　録

会　議　名　令和５年度第１回刈谷市歴史博物館協議会
日　　時　令和５年５月２４日（水）　午後４時００分～５時３０分
場　　所　歴史博物館　１階講座室
出　席　者　協議会委員：西宮秀紀（会長）、堀江登志実、山本智子、山田孝、真島聖子、田中仁、緒方昭文、鈴木三千子、成田年秀
※石橋保尚委員は欠席（敬称略）
事　務　局：近藤部長、鷹羽課長、田代館長、新田館長代理、長澤学芸員、水野学芸員、河野学芸員、永井学芸員、山下学芸員

内　　容
１　あいさつ
２　議題
（１）令和４年度の状況について
＜資料について＞
（A 委員）資料閲覧室における資料閲覧対応は、閲覧者数が多いが負担になっていないか。
（事務局）図書も含まれるがほとんど紙焼きの閲覧件数。原本の閲覧はこれよりも少ないことから問題ない。
（A 委員）資料の燻蒸は環境に配慮したものとなっているか。
（事務局）館内の燻蒸は環境に配慮して袋に入れて行う二酸化炭素を実施している。袋に入らない大きなものは郷土資料館で行っている薬剤燻蒸の際に資料を持ち込んで行っている。
（B 委員）城町図書館の収蔵庫はまだ使用しているのか。もう歴史博物館に全て持ってきているのか。
（事務局）まだ使用している。民具や現代的なものなどは城町図書館で保管している。

＜企画展について＞
（A 委員）企画展をコンスタントに開催できるようになったことは良いし、それぞれ一定の観客を呼べている。これは要望だが、観覧者数や参加者数の数字を挙げるだけではなく、展示の良かった点、反省点を記録し、ここでも一言報告してもらい、次に反映してもらいたい。
※令和４年度企画展について、各担当者から成果と反省点を報告。
（B 委員）『泉田の今昔』に掲載した絵図の原本が見られた。遠方で普段見られないものを近くで見られるのはありがたい。重要文化財「家忠日記」が他館とバッティングし、分冊展示だったのは残念。
（A 委員）TSUNAGU 展は修復した資料を取り上げるということでよくやられた。収蔵していても状態が悪く展示で出せないものはたくさんある。そういうものを見てもらう手立てとして、資料の状態と修復の必要性を理解してもらうことは重要。今後も色々と修復の例を出してもらえると良い。
（C 委員）TSUNAGU 展は今後も連続物でできそう。
伊勢物語の展覧会はあちこちでやっていて食傷気味であったが、そこをかいくぐって面白い切り口で展示されており大変面白く拝見した。深溝松平家展もそうだが切り口を変えることで見え方が変わり、何回もできる。

＜博学連携について＞

（D 委員）学校現場の者（教員）の受け入れは、刈谷出身でない教員も多いことから大変有効であった。社会科自主研究会を受け入れについて、北斎漫画展での自主研は美術の教員も参加しており、社会科以外の教員にも歴史博物館とのつながりができた。中学校１年生の見学を通じた子どもたちとの関わりだけでなく、教員とのつながりができたことはありがたい。

（E 委員）アウトリーチプログラムは良い試みだが市内１５小学校のうち３校だけ実施というのは少ない。教科書に出てるようなことだけではなく、生の歴史を学んでもらいたい。学校にはこういう教材がありますなどと案内しているのか。

（事務局）教材を紹介し宣伝しているが、個々の学校の都合もあって出来ていないところもある。一度実施した学校は継続して実施してもらえているので、最初のハードルを越えるのが難しいが、まずそこをクリアしていきたい。

＜常設展示について＞

（F 委員）特集展示は３～６月開催だったが、企画展の宣伝の意味も含めてやっているのか。展示替えはテーマごとに担当者を割り振って行っているのか。

（事務局）常設展は現物の資料を展示していることから、資料保存の観点から展示替えが必要となり、３か月ごとに実施している。そのため結果的に宣伝にもなっている。担当者は近世１、近世２、近代の全３ケースについて分担している。各ケース決まったテーマがあり、本来それに合った資料を配置すべきだが、開館して４年も経つので同じ資料を展示するのも実物資料なのでどうかという思いもあり、例えば特集展示として企画展には出品されないが関連する館蔵品を実験的に展示することがある。できる限り実物の新しい資料を展示することを目指している。

（２）令和５年度の予定について

＜北斎漫画展について＞

会議後、時間のある委員で見学会を実施した。

＜井ケ谷古窯展について＞

（F 委員）井ケ谷古窯展は刈谷を中心に描かれている印象を受けるが、猿投窯の中の井ケ谷窯という視点を持ってやってほしい。

松根３号窯の覆い屋をつくる話はどうなったか。

（事務局）覆い屋の話はなくなった。ただし、他市の状況などを伺いアーチの部分はコーティングをした。本地下から水が来ていて窯体が壊れる恐れがあると委託業者から指摘があったため底面はブルーシートをかけて保護している状態。看板設置の予算も確保しており、成果を見えるかたちにしていく。

＜姫たちの想い展について＞

（A 委員）放映中の大河ドラマは史実とかけ離れてたイメージが作り上げられており、それが定着する恐れがある。それを正すような内容になると良い。また戦国期の女性で表に出てくるというのは精神的な支えとなるところがあり、ここで出てくる妙西尼（妙春尼）も真宗の赦免のところで歴史的役割を果たしており、三河の真宗寺院では大切に扱われた人。そういう部分もあって期待したい。

（３）「刈谷市歴史博物館基本運営方針」の見直しについて

（B 委員）縄文、城下町、トヨタを柱とする展示は刈谷の中部地区の歴史であり、北部・南部がほとんどない。それを補うために常設展で資料を出していくとのことであったが部分的。これをどうしていくのかというのは大きな課題。

地域の埋もれている歴史資料の調査・収集も課題。例えば築地の熊野神社の神宮寺の資料や、無形民俗文化財の小垣江神明社のおまんとの調査も必要。こうした指定されていない文化財の調査を実施してもらいたい。

（C 委員）基本方針として、当初はこの基本方針で行こうということで話をされたと思うが、最初の協議会でお話ししたとおり博物館は通史的なことがあるべき。その中で特徴的なところを展示するのは良いコンセプトではあるが、縄文、近世、近代の３つに特化するとその間の時代や資料はないのかという誤解を生む恐れがある。元々は企画展で補うということだったが、なかなかそう上手くもいかない。常設展の中にも少しでも間の時代を埋める努力をしてもらいたい。それが研究や教育のためにもつながる。

（A 委員）今回の博物館法改正の中に博物館資料の公開が含まれている。収蔵品資料のデータベースについて、単純に外にはつなげないが、現在はどこまで進められているのか。

（事務局）クラウド型のデータベースを使用している。歴史資料や古文書など基本的な情報はデータベース化できているが、写真はあまり撮れておらず、調査時のメモ写真もクラウドに載せられていない。写真を撮り、見直しをしてリンクさせていくことが課題。

（G 委員）クラウドなので極端なことを言えばデータは無制限に入れられる。写真をスキャンしたり焼いたりしてデータベースに落とし込んでいく作業は膨大だが必要になると思う。どこまで一般に公開していくのか、その辺の線引きをきちんとルール化してやっていけば上手く活用できるのではないか。

（H 委員）ずっと言われていることであり、アンケートの回答にもあるが、やはりカフェや休憩スペースを求める声が多い。休憩スペースを庭に少しでも用意するなど、できる範囲でくつろげる空間を整えられると良い。

（C 委員）くつろげる博物館というイメージ作りが必要。喫茶店を作る、レストランを作るなど大掛かりでなくても良いので、工夫をしていただけると親しみが湧くのではないか。

（B 委員）かりまるバスの改定の際、北部から直接来られる便を追加するなど交通アクセスの改善を図ってもらいたい。

（I 委員）とにかく進めていくには時間がない。歴史も早くしないと消えてしまう。

＜次回の協議会日程について＞

（事務局）次回は令和６年１～２月頃に開催する。